

第24回参議院比例代表選挙 滋賀県医師連盟推薦

自見はなこ氏日医連参与

医療政策について語る

3/26「滋賀県医師連盟医療政策勉強会」

3月26日(土)大津市内で「滋賀県医師連盟医療政策勉強会」が開催され、7月の参議院比例代表選挙立候補予定者で医師の自見はなこ氏(日本医師連盟参与)が、「私の目指す医療政策について」と題して講演、続く座談会ではコメンテーターとして、滋賀県第3選挙区選出の武村展英衆議院議員とともに医療政策の諸課題について、出席者と活発な意見交換を行った。



自見はなこ氏は講演の冒頭、いち早く推薦決定をした滋賀県医師連盟に対する感謝と、滋賀県への深い親近感の心情を述べ、「その大きな支援のなかで、気を引き締めて自分の役目を果たしていく」と語った。そして全国くまなく、都市部だけでなく山間地や過疎の診療所に足を運ぶなかで、国民皆保険の名のもとに国民に等しく医療を提供できるという国民皆保険のすばらしさ、あまねくユニバーサルサービスとして日本中に医療が根付き、医療が底支えしている社会の安心というものが、どの地域に行っても厳然と存在しているという、このことは尊いことであり、医療があるところに人が住み、人が住むところに医療がある、医療と人々の生活というのは分けることができないということを深く感じていると述べた。

また、社会保障の充実を訴える立場から、安心して医療・介護・福祉が受けられる社会をつくっていくために、地域医療を支える医師や看護師の人材の確保、地域包括ケアシステムの構築、こども・子育て支援の拡充等の重要性について述べた。そして「私たち一人ひとりが意識を高く持ち、地元国会議員や地元議会議員と医師自らが積極的に関わっていくことで政治を動かし、ひいては社会そのものを動かしていくのだということを、私たち医療従事者がよくよく解っていることが、何より国民にとって大きな利益をもたらすことであると感じている」と続けた。



(裏面につづく)



さらに「私たち医療人が正しいと思うこと、こういう社会であってほしいと思うこと、それを実現するのは私たち一人ひとりであり、その方々の気持ちを集めて、私は強くあらねばならないと感じている。医療界と医療界以外のものをつなぐ強固な架け橋となり、地域医療・福祉を支えるため大変なエネルギーと時間を割いて尽力いただいている皆様の思いをしっかりと伝えていきたい」と締めくくった。



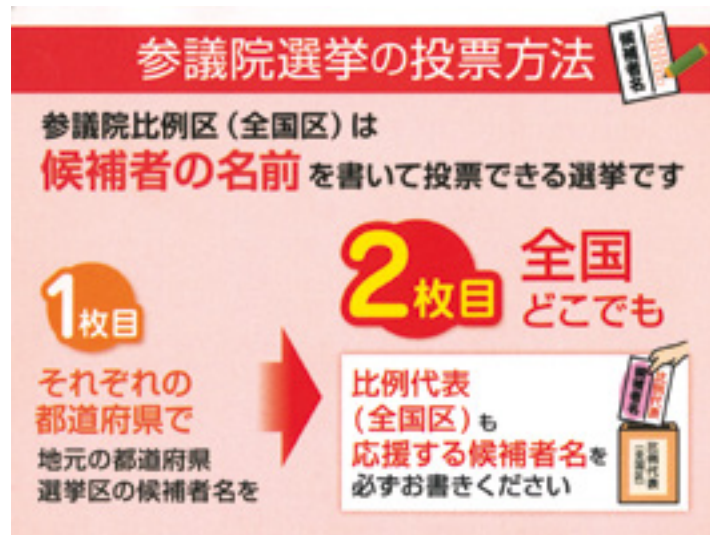
引続き座談会では、「医療政策の諸課題について」のテーマのもと、フロアーの参加者との活発な意見交換が行われた。保険指導の地域格差、地域医療の格差、人口減少・人口偏在、臨床研修制度のもたらす病院格差、臨床心理士の人材有効活用等々、開業医・勤務医それぞれの医療現場で切実に感じている問題について、武村議員は国会議員としての



立場から、自見氏は医師として、また全国行脚で地域医療の実態を目で見、耳で聞いた経験をもとに、各々の質問に応じた。また自見氏は最後に、「私自身が医師会、医療界の代表として山積する課題に取り組んでいける存在になり、自見を選んでよかったと言われる仕事をしたい」と決意を述べた。

5/11 自見はなこ氏 長浜・彦根地区の医療機関等30ヶ所を訪問

6/8 自見庄太郎氏（自見はなこ氏実弟） 近江八幡・東近江地区の医療機関を訪問



◇こやり隆史氏(自由民主党公認)の推薦を決定◇

滋賀県医師連盟では、4月7日(木)開催の代表者会において、7月に予定される第24回参議院議員通常選挙で滋賀県選挙区から立候補予定のこやり隆史氏(自由民主党公認)の推薦を機関決定しました。

★こやり隆史氏プロフィール: 京都大学大学院物理工学修了。旧通産省入省。内閣参事官としてアベノミクスの柱である成長戦略を担当。平成26年退職。大津市仰木町出身 49歳。